

## 研修会・講習会

## 研修会参加報告 (第18回 全日本ユースフットサル大会)

## 第18回全日本ユース(U-15)フットサル大会を終えて

2級審判：高橋 厚之

平成25年1月11日(金)～14日(土)、三重県伊勢市で開催された第18回全日本ユース(U-15)フットサル大会(私は、11日(金)～13日(日)まで)に参加させていただきました。

今回の会場であった三重県営サンアリーナは、非常に大きく美しいところで、体操の国際大会等の会場にもなる体育館でした。そのような立派な会場での大会に参加させていただけるということに、改めて身が引き締まる思いでした。

11日金曜日は、14時30分にホテルに現地集合し、全員で試合会場まで移動した後、はじめにフィットネステストを行いました。各地域からの派遣審判員同士、お互いに助け合い、競い合いながらのテストでした。比較的自信のあったスピードとアジリティだけでなく、苦手であった1000m走でも1級合格タイムをクリアできたことは、少し自信になりました。

今後も日々のトレーニングを怠らず、さらに高いレベルの走力を獲得できるよう努力していきたいと思いました。

その後のプラクティカルトレーニングでは、今回の改正ルールの一つである、ブザービートの確認や、目測での5mの測定、サイドステップでのポジショニングなど、基本的なトレーニングを行いました。

特に5mの目測が難しく、今後の課題として取り組んでいかねばならないと感じました。

さらにその後、競技規則テスト、研修会を行いました。今回の競技規則テストでは与えられた状況にどう対応するのかという、以前の競技規則にあったQ&A形式の問題と、ルール改正に関する問題が出題されました。研修会では、北海道の木村氏から改正ルールやU-15ルールについてのお話を聞きました。試合前に必ずカテゴリを確認するといった、当然であるが審判員として大切な心構えなどについて学ぶことができました。

12日土曜日は朝から大会が始まり、私は主審と第3審判1試合ずつ、タイムキーパー2試合の割り当てをいただきました。この日はオフィシャルが多く、主審や第2審との協力を特に強く意識して臨みました。最後の試合では、1発退場のシーンがありましたが、審判団として全員がしっかりと連携することができ、インストラクターの伊崎氏からも良いチームワークであったとお褒めの言葉をいただくことができました。常に審判団の一員として、自分のすべきことをするという基本的なことが、本当に大切であると再認識することができました。

その夜の反省会では、様々な反省点が出ました。U-15ルールに関するものだけでなく、手の不正使用、正しいポジショニングといったどのカテゴリにも共通する内容の話もありました。

中には基本的なことができていなかったという内容の反省もありましたが、なぜそのようなミスが起きるのか、ということについて皆で考えました。

結論として出てきたのは、今回の大会のように、初めて組む審判団がゲームに臨む場合、打ち合わせが大変重要であるということでした。

“自分たちがどうしたらゲームコントロールをしやすいかは、打ち合わせの内容が大きく左右する“  
これからの打ち合わせを行うときにはこのことを十分に意識したいです。

13日日曜日は女子の予選リーグも始まり、私は主審、第2審判、タイムキーパーの割り当てを1試合ずついただきました。

この日の一番の反省は、主審がフリーグ担当の間島氏で、私が第2審判を担当した試合です。私が相手に遠慮してしまい、特に前半はほとんどを対面から援助していただくことになってしまいました。後半は少し持ち直すことができたのですが、反省会でもインストラクターの五十川氏から、「遠慮しすぎだね。」と言われて

しました。私は以前から、上級レフェリーと組む時に遠慮してしまうという課題がありました。今回は遠慮せずに自分の判定をしようという気持ちでゲームに臨んだにもかかわらず、またしても同じ失敗をしてしまいました。

私が判定に自信を持てていなかったことがその大きな原因であると指摘していただき、問題の根本に気づかせていただきました。この問題を改善していくには、これから高い意識を持って多くのゲームを経験していくことが一番であると言われましたので、割り当てをいただいたゲームに精一杯取り組み、少しでもよいレフェリングができるように努力していきたいと思えます。

また、主審をさせていただいた試合では、インストラクターの伊崎氏に、円滑なゲーム進行を意識するように、との指導を受けました。ゲームをマネジメントしていくうえで非常に大切なことですので、常にこのことを頭においておきたいと思えます。

大会の3日間を通じて、審判員としての在り方や、マンマネージメント、今までになかった視点など、多くの貴重な気づきがありました。また、私自身の課題も多く見つけることができ、本当に有意義な3日間を過ごすことができました。今回の経験を、今後の審判活動に生かし、少しずつでも成長していきたいと思えます。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えていただいた関西サッカー協会、日頃から手厚いご指導をしてくださる兵庫県フットサル連盟の皆様をはじめとする私を支援してくださる方々に対して深く御礼申し上げます。

また、現地でのご支援をいただいた垣内さんをはじめとする東海フットサル連盟、三重県フットサル連盟の皆様にも感謝いたします。

皆様のご指導とご協力があったからこそ、自分の審判活動が出来ているのだということを理解し、今後も感謝の気持ちを忘れずに審判活動に取り組んでいきたいと思えます。

さらに、今回の全国大会で学んだことを地域、都道府県協会に還元できればと考えております。

本当にありがとうございました。

以上